

1・大麻藤認定こども園の教育目標

- ・自分を信じ、自分を愛することができる子ども
- ・思いやりや感謝の心を持てる子ども
- ・主体的に、生き生きと生活できる子ども

「自分でしたい！」を大切に、
「自分でできた！」という喜びを積み重ねることにより、
主体的に生き生きと人生を歩んでいくための力を養います。

2・学校評価の具体的な目標・計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組み、保育の質の向上に繋げる。 2023 年 4 月

3・評価項目の達成および取り組み状況

＜今年度の経営の重点＞

- 保育の質の向上のための研修計画
- 幼保連携型認定こども園としての人員配置と経営の安定
- それぞれの役割の明確化

4・学校評価の流れ

12 月	教職員へのアンケートを実施し集約する。
1 月	保護者へアンケート実施。 自己評価書の作成。
2 月	学校関係者による評価実施。
3 月	アンケート結果の公表、次年度に向けての方針提示。

5.自己評価集計結果

A:5 十分達成している B:4 達成している C:2 取り組まれているが成果が充分ではない
D:1 取り組みが不十分である

自己評価については、各評価項目について達成状況を ABCD 評価し、数値化することでより明確になり意識化を図ることができると考えた。

分 野	達成状況
教育及び保育方針、教育・保育計画	4.1
教育・保育内容	4.0
保育教諭の資質の向上	3.9
子どもの健康及び安全	4.4
特別支援教育	3.9
食育の推進	4.3
小学校との連携	3.9
開かれた園づくり	4.2

達成状況としては、おおむね良好であったと思われる。コロナ禍を過ぎて、活動の場を地域に広げ、小学校との連携や交流、一人ひとりに寄り添った教育の充実(特別支援教育)、環境整備、保育教諭の資質向上を進めていくことが喫緊の課題と思われる。以下に評価項目の自己評価をもとに次年度に向けて改善方策を記載しています。

分野	評価項目	自己評価
		改善の方策
教育及び保育方針、教育・保育計画	園の建学の精神にあるキリスト教の理念に基づいた園の教育・保育理念や目標及び重要事項を理解している。	今年度、コロナ感染対策が緩和され、認定こども園としての活動をすすめる初年度でした。日常の生活リズムや保育活動が定着しつつあり落ち着いた保育ができた。今後も日々の生活の中で、キリスト教の理念、教育目標について理解を図ることができる取組を続ける。園児の健やかな成長に向けて、安全を第一に一人ひとりが落ち着いた環境の中で成長することを見守り、教育・保育に対して教職員が共通理解する中で進められるよう研鑽を深めていく。
	園の教育・保育理念及び目標とこども園教育要領の関係を理解し、子どもの生活実態に即した計画作成に努めている。	現状の子どもたちの状況を把握しながら、その都度、保育計画を見直して実施することができた。計画立案に関しては、保育教諭間の連携を密にして相互の考えを尊重し、課題を共有し連携して進められる体制づくりが大切である。経験のある保育教諭が多いことから、よりよい計画となるように連携していく。
教育・保育内容	0歳児から就学前までの一貫した教育及び保育を、園児の発達や学びの連続性を考慮して展開している。	今年度2歳児・満3歳クラスでは、先を見通した保育内容を検討し進めていくことができた。合同会議で交流する中で、乳児クラスから幼児クラスへの移行するにあたってハードルの高さを感じており、定期的に乳児・幼児の担当者が情報の共有をはかり、0歳から年長までを一貫した関わりに努め、乳児から幼児への保育の繋がりを見据えて理解を深めていくことが大切である。
	在園時間が異なる多様な園児がいることを踏まえ、園児の生活が安定するよう、家庭や園における生活の連続性を確保し、1日の生活リズムを整えるよう工夫している	2・3号認定児は食事や睡眠など、個々の状況にあった対応をすることができた。異なる在園時間の中でも工夫して遊びの時間の確保をしたり、基本的生活習慣の自立に向けて援助したりしてきた。家庭との連携の大切さを感じつつ、子どもたちにとってどのような関わりが大切かを考えた保育を進めていくことが大切である。
	園児一人一人の人格を尊重し、安心感と信頼感をもっていろいろな活動に取り組めるよう適切に働き掛けている。	年齢に応じて丁寧に個々と関わったり、過度に関わりすぎず見守ったりと子どもと信頼関係を築くことができるように配慮してきた。一人の子どもの対応について、担任だけではなく保育教諭間で共有し連携を取ることが出来た。不適切保育や事件のニュースを耳にして、その都度、適切な保育について考えるきっかけとして話をしてきた。より一層信頼される園に向けた取り組みが大切である。
保育教諭の資質の向上	キリスト教の教えを学び、乳幼児に伝える指導法を研究する。また、日常的に神さまの存在に触れるよう伝え、年齢に応じて宗教講話や神様の話をしている。	乳児では散歩のときにマリア様に「行ってきます」をしたり、戸外で摘んだ花をマリア様の前に飾ったり、また、食事の前に手を合わせ食への感謝の気持ちをもつことが始まりであると感じている。幼児では神さまの存在が、人としての大切なことを学ぶ時間として、気持ちの伝え方を学んでいる。年長は、聖堂をお借りして、いつもとは違う雰囲気の中で神さまの話を聞く機会としている。引き続き、年齢に応じた対応を心掛けて伝え方を工夫していくことが大切である。職員は、年5回、札幌藤高の吉武先生の宗教講話を行い、キリスト教、聖書を学ぶ機会とすることができた。
	組織の一員としての在り方として、当番や役割による仕事は確実にを行い、皆で助け合いながら進めている。	職員の感染症による休みに対して、保育を継続するために出来る範囲で自分の役割について臨機応変に取り組み、個人の見解の差はあるが責任を持って進めることが出来ている。今後は決められた役割以外でも、急な対応の際の仕事の分担などを一人ひとりが自主的に進めていけるようにする。業務が集中しないように計画的に進めるとともに相互の立場を理解して連携していきたい。
	資質向上を図るため、主体的、計画的に研修会に参加し終了後は研修報告を提出し還流を行っている。研修のみならず、自ら調べたり、本を読んだり等自己研鑽に努めている。	研修の在り方が以前のように対面となる一方、リモートでの研修の機会もあり、研修の在り方はニーズに対応できている。リモートは、移動時間もなく研修には参加しやすくなったが、勤務時間内で研修に参加することが難しいところもあった。研修で学んだことを園内研修として共有したり、自分で学びたいことを明確にしたり、積極的に学びの機会とすることが大切である。

分野	評価項目	自己評価
		改善の方策
子どもの健康及び安全	新型コロナウイルス感染予防対策が緩和される中、よりよい活動に向けて教職員と話し合い、衛生管理に努めている。また、保護者と連携を取りながら園、家庭双方で体調管理に努めている。	コロナ感染対策が緩和されたが、様々な感染症の流行が懸念され、予防対策は、丁寧に行われている。以前の生活を取り戻し保育の充実が図られている。職員の作業量が増えて負担があるが予防に向けた対策は簡素化して継続、自分たちで出来る消毒作業は丁寧に進めている。また、保護者の方へ健康管理の協力を依頼することも多かったが、家庭の事情がある中、こども園が閉鎖することなく保育に協力をしていただき、柔軟に対応していただけたことに感謝している。
	積極的に戸外で体を動かせるよう、外遊びの時間を確保し、四季の移り変わりを感じられるよう配慮している。	できる範囲で戸外遊びを取り入れ季節を感じて楽しむことができた。隣接する公園の木々が四季の移り変わりを感ぜさせてくれる環境であることが貴重である。次年度においても園外保育や水遊びを思い切り楽しみたい。
	常に事故防止に努め、睡眠中、水遊び中、食事中、園外保育中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、園児の主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行い、必要な対策を講じている。	午睡中の見守り、食事中の誤飲、園外での安全など、教職員の配置や事前確認を共有して行うことが出来ている。乳幼児の事故のニュースも後を絶たないが、重大事故があったときには、自園だったらという仮定のもと対策を講じていく。特に、園バス登降園時の園児への対応について、防止対策機器を整備したが、職員が目で園児がいないことを確認し丁寧に行っていく。
	万が一、怪我や事故が起きたときは、その発生状況の問題提起をし、教職員で話し合い再発防止に努め、記録に残している。	今年度は、重大な事故・ケガはなかったが、保育中の怪我はあり、保護者の協力を得ることがあった。その都度、職員間では対応について情報の共有や連携を図ることができた。今後においても、怪我があった際は振り返り、再発防止について話し合っていく。怪我の大きさに関わらず、ヒヤリハット報告書として記録に残していく。
	事故の発生に備え、自然災害や不審者侵入に対する訓練を行い、反省点を洗い出し改善を図っている。	月一回、様々な想定での訓練を行い、どのような状況でも教職員が自分の行動を的確に判断できるように取り組んでいる。今年度は消防署の協力の元、職員の消火訓練を行うことができた。また、その都度、反省会を行い次に生かしていく。
特別支援教育	特別な配慮を必要とする園児は、集団の中で生活することを通して、共に育つことが出来るように組織的に取り組み、職員間で情報を共有し、よりよい関わり方について共有し、連携した取り組みとなるようにしている。	家庭、園、療育機関と連携を取り、同じ方向で子どもの育ちを見守ることが出来るように引き続き進めていく。保育教諭間で子どもの様子、情報の共有は大事であり、細かい変化にも気づき育ちに生かせるように進めた。会議時間の短縮に向けて、伝えることを事前に整理して共有の仕方を工夫することで時間短縮につながった。園内研修を行い支援が必要な場面、事例をもとに教職員間でどのような対応が良いのか役割分担を検討し、連携の在り方を共有することができた。
	家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で園児への教育・保育支援を行うために、個別の指導計画を作成している	江別市の関係機関と巡回相談等を活用し連携できた事例があった。民間の支援施設、関係機関とは出来る範囲の中ではあるが、双方向で連携は出来たが、保護者への働きかけが難しい。個別の指導計画は作成され、日々の保育の中で共通認識を持って生かされた。しかし、集団の中で対応が難しく支援が必要と考えたとき、タイムリーに関係機関と連携することが難しく残念だった。江別市においての特別支援にかかわる情報を保育教諭全体で共有していく。
食育の推進	園児が生活の中で、意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しむことを大切にしている。また、必要なマナーも伝えている。	食事の時間は楽しい時間となることを大切にしたい。行事食は管理栄養士の配慮もあって、見た目の工夫があり、旬のフルーツ、収穫した野菜を給食で提供してくれたり、子どもたちのリクエストや選択できるように配慮してくれたり、子どもたちが食べることに関心を持って食べる事ができた。今後も管理栄養士と関わりを持ち、保護者の給食試食会や食の講座などの機会を企画したい。

分野	評価項目	自己評価
		改善の方策
食育の推進	乳幼児期にふさわしい食生活が展開されるよう、年齢や個々に応じた適切な援助を行っている。 また、保護者との連携も図っている。	保護者が園内の様子を参観できるようになり、乳児においては、食事の様子を伝え、保育の様子から園生活の日常を知ってもらう機会となった。個々の食への嗜好に対応し、継続して援助している。年度末になり、成長に伴い食べる量や食材が増えてきているのを実感している。食事に課題のある園児に対して、保護者と食具の使用や食事量について家庭と連携して同じような関りをするのが望ましいと思われる。
	給食会議は、園長、乳児担当、幼児担当、管理栄養士、外部委託会社社員が参加し、適切に開催し食の向上に努めている。また、記録も整備している。	定期的に会議を開催し、担当ごとに意見を出し合い、改善すべきところは管理栄養士を通し連携を取ることが出来ている。会議以外でも栄養士と話をし、日々気の付いたことは伝えることができ、相互連携ができていた。今後においても、食の向上に努め食育を推進する。
小学校との連携	小学校訪問・交流などに取り組み、小学校教育への接続を図るとともに、「幼保連携型認定こども園園児指導要録」を作成し、就学する子どもたちへの不安を取り除けるよう丁寧な引継ぎを行っている。	年長児のスムーズな就学に向けて、大麻小学校訪問を実施した。また、年長は他園と交流も復活し、活動を通して、普段見られない生き生きとした姿を見ることができた。就学に向けての引継ぎは電話が主流になっているが、教育委員会と連携して園生活の様子を参観してもらいながら、個々の園児の様子について丁寧に引継ぎを行い、伝えることは出来ている。
開かれた園づくり	園だよりや登園管理、バス運行状況等のデジタル化を進めた。また、コロナ対応が緩和され、以前のように保護者が参観する行事、参観・懇談など保護者と関わることを通して、園の情報を広く公開してきた。保護者のニーズにも耳を傾け、双方向に開かれた園づくりに努めている。	今年度から、配布物のペーパーレス化を図り、登園管理もデジタル化することで業務の簡素化に努めた。また、バス運行に関わっては、位置共有システムを活用し、バス運行状況が見えバス停で待っている時間の短縮を図ることができたと思う。ブログは通常保育期間は毎日更新し、園の様子の公開に努めている。出来る限り園の様子を伝える努力をしてきた。今後は、個人情報の取り扱いに配慮しながら、保育の様子を保護者へ知ってもらいながら、保護者の園訪問の機会をつくり、人数制限をせずに参観してもらうようにしていく。ペーパーレス化に伴い、紙媒体で情報が欲しいという保護者への対応が十分ではなかったため、丁寧な対応をしていく。
	幼児教育、乳児保育の専門性を活かし、地域の乳幼児が健やかに育つ場所(ひよこくらぶ、めばえくらぶ)を開催し、その保護者にも交流の場や子育ての情報提供が出来るよう努めている。	未就園児クラスの開催回数は予定通り進めることができた。次年度の入園にまで繋がったケースは少なかった。今後は、未就園児クラス(めばえくらぶ、ひよこくらぶ)に参加してもらえるような働きかけをするとともに今後、入園にまで繋がるような体制、入園を見据えた取組(情報提供の方法、活動内容、母子分離の保育、くらぶ開催回数の増加)等を検討する。今年度は、家庭以外で遊びの場、保護者の交流の場として提供でき、充実した内容であった。今後においても保護者が本園の取り組みを通して子育てをすることが楽しいと感じる魅力的な場の提供を目指し、開かれた場なると良いと思う。
	園の評価結果を公開することにより、透明性を図り信頼される園を目指している。	引き続き、信頼される園づくりを目指していく。

自己評価における意見、感想	子どもたちと一緒に過ごし子どもたちから学ぶことが多かった。環境には十分に配慮しながら過ごしてきたと思うようにいかないこともあった。今年度の反省を生かしていきたい。個別の対応や保護者対応で難しさを感じる場もあり、研修などで学んでいきたい。 日々の業務に追われて余裕が持てなかった。今年度の取組を踏まえて少し先を見ながら次年度の準備をしていきたい。研修に参加してスキルアップに努めたい。 評価項目の中で自分は達成できたと思っていることも客観的にみると十分な達成度ではないものもあると思うので努力していきたい。他の先生と園全体で行うことは共有して、もっと素敵な園になるよう協力していきたい。 評価項目の中に達成できていると自信が持てないものもあった。カトリックの園なのでカトリックの理念やキリスト教の教えを学んでいきたい。 子どもにとっても、職員にとっても働きやすい場となるように努めていきたい。そして、一人ひとりの良さが発揮され、子どものためにみんなで協力して保育が出来るよう自分自身も学びを深め日々の保育に反映させていきたい。 昨年より、自分が気を付けたいところは意識して保育することができたので、スムーズに仕事ができたと感じている。乳児、幼児の生活の流れ、双方の違いを認め合い、工夫する点など自分の動きを考えていくきっかけとなった。乳児と幼児のふれあいの場があると職員間でも分かち合い、保育の充実につながると感じた。 ブログ更新をする中で、園の様子が見え、子どもたちが楽しんでいる様子を伝えられるお仕事を通して園の一員だと感じた。今後の子どもたちの良い表情がみられる活動をすすめたい。 乳児だけ、幼児だけというくくりではなく全体を把握することで「つながる保育」になっていくと感じたので今後も取り組んでいきたい。 自分ができることを積極的に言い担任の負担を軽減していきたい。困ったことがあれば、十分に話し合いをしたり相談したりできる時間があり良いと思った。担任が抱えている見えない仕事があり、もっと共有し、開かれた中でみんなで協力して分担できないかと思う。
---------------	--

6・学校関係者評価委員会の意見 R6.2.27 開催し貴重なご意見を頂きました。

1 アンケートの結果について - アンケート回収率 60.5%は妥当な数字だと思います。共働き家庭の増加や日常の忙しさ、子育て世代の考え方の多様化により様々な意見がある今日ですから、60%の回収率は十分だと思います。 - 貴園の特色は、カトリックの宗教的情操教育、保育活動の充実、行事を通して豊かな心の醸成ですから、保護者はどの場面からも意見を述べるのが可能です。毎年同じ項目ですがこの質問項目を変更する必要はないと考えます。 - 大部分の保護者の意見は貴園に好意的です。これは、貴園で働くすべての皆さんの前向きな保育教育の取組の成果だと思います。ペーパーレス化に対する要望がいくつかありますが、この部分是对応が変わるところですから、その都度保護者会等で説明していくことが大切だと思います。 - 貴園に通う園児たちの「はつらつとした子どもらしさ」「保育者とかかわす何気ない言葉のやり取り」「保護者の貴園への全幅の信頼と安心」等がアンケート結果の文章から感じ取れます。 2 自己評価の結果について - 自己評価の持つねらいが職員に周知され、意欲的な自己評価がなされていると思います。 - 五段階評価でチェックは難しいのですが、達成状況を小数第一位まで表示して意欲喚起しているのが良いと思います。改善の方策は端的な表現にしてはどうでしょうか。(箇条書き等) - 自己の役割を自覚し協力的な保育体制を構築していくことは、言葉では簡単ですが実践ではなかなかうまくいきません。価値観も性格も人間性も異なる教職員集団で力を合わせることの難しさは十分に分かります。貴園の地道な取り組み、反省に基づく次年度への展望づくりに敬意を表します。 3 その他の園に対するご意見 - 保護者の価値観の多様化対応や日々の保育活動、行事の充実等にご苦労された一年だったと推察します。 - 時代の進む速さやスリム化に対応し創意工夫されたことがよくわかりました。 - 保護者の中に様々な要望が出され園長対応の場面もあったようですが、「子どもの笑顔は親をも変える」の気持ちで大麻藤の教育をより向上させてください。 - 次年度の保育の取組について ① 完全給食の実施 ② クリスマス会の土曜日開催 ③ 年長クラスの小学校交流 ④ 二歳児クラスの開設、未就園児クラスの活動の充実 様々な取組や対応が変わるようですが、すべては子どもたちのために進められることと思います。保護者に明確	
---	--

に理解されることを祈念しています。

- 重大事故が発生している現状の中、貴園の事故防止、再発防止に配慮されている様子がよくわかり安堵しています。これからも、健康・安全への配慮を運営のベースにしてください。
- 人口減少時代、今後の園児数減少傾向を読み、対策を練っていく必要があります。園の特色づくり、職員確保の対応、地域に根差した園の在り方等を思うと、地域人材の発掘、活用に向けた戦力名簿作りを進め、5年後を見通した戦略経営が重要であると思いました。

7・財務状況

R5.10.25 公認会計士の監査を受け、業務処理等については適切に処理されており問題なしと報告されております。